



TITLE:

<批評・紹介>歴代名畫記 小野勝年
譯註

AUTHOR(S):

長廣, 敏雄

CITATION:

長廣, 敏雄. <批評・紹介>歴代名畫記 小野勝年譯註. 東洋史研究 1938,
3(5): 451-453

ISSUE DATE:

1938-06-28

URL:

<https://doi.org/10.14989/145621>

RIGHT:

構造は大同小異で、何れも堤岸の類を以て水邊の濕地を圍んで内を田としたものであつた。これらの中には北宋の眞宗、仁宗頃から創められたものもあるが、その多くは徽宗の世から盛んに設置を見るに至り、南宋に入つて益々流行した。これらは性質上官有地たるべきものであるが、屢々豪家及び寺觀によつて非法侵占されて私有地となり、或は官より之を出賣して私有地とされ、又官有のものと雖もその多くは請佃の形式で豪家や寺觀によつて兼併された。又園田や圩田や湖田には屢々莊園が設置せられ、管莊、監莊を置いて之が管理に當らしめた。これらが豪家や寺觀によつて兼併せられた結果江湖陂塘の水利は獨占せられ、民田は水旱の災を被らざるを得なくなり、その害が社會問題として取扱はれるに至つたのである。朝廷は、大體に於て園田及び湖田に對しては開掘を命じたが、圩田に對しては有害のものゝみ開掘又は改正を命じ、沙田蘆場に對しては單に納租を命ずるに止めた。しかしこの取締は充分に徹底すべきものではなかつたことを説く。この問題に關しては、さきに周藤吉之學士が「宋元時

代の佃戸に就いて」史學雜誌四四、一〇・一二に於て一應論述してゐるが、著者は之を補ひつゝ、難解な宋會要や文集の類を縦横に援用して堅實な論歩を進めてゐる。著者自身もいつてゐる如く、本篇にはこの種の水利田が宋代に至つて俄かに發達した原因に就て論じて居ない。私は金の壓迫を被つて宋が淮水以南に退却せる以後は、人口の増加や財政の窮迫によつて荒地開拓の要に迫られたといふことにもこの問題を解く鍵が見出されるであらうといふ著者の推測に左袒し、著者がかゝる方面に關して精緻なる論考をもつてせられ、未開拓の状態に残されてゐる南宋時代の社會經濟史研究の分野に來耜を下されん事を望むものである（外山軍治）

歷代名畫記

小野勝年譯註

岩波文庫版 三九二頁 價六十錢

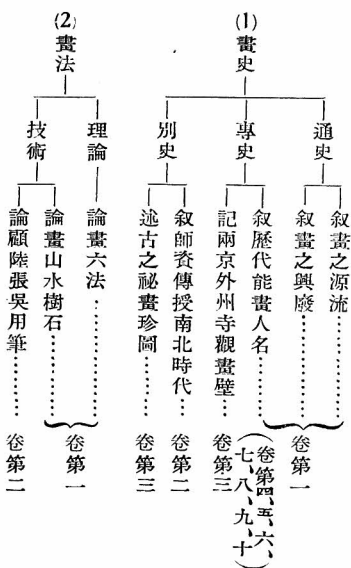
東洋史專攻小野勝年君の手で張彥遠撰歷代名畫記の邦譯が、岩波文庫版として出版せられたことは、最近の學界欣事である。歷代名畫記は晩唐會昌年間に書かれたもので、支那繪畫史研究のもつとも貴重な文献であり、この書に次いで宋の郭若虛の圖畫見聞誌、鄧椿

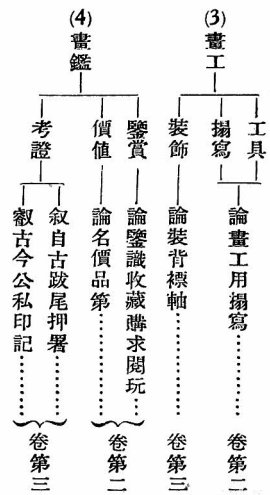
の畫繼があつて、これらの三書は繪畫史に於て殆ど正史の趣をもつてゐるといはれる。

歷代名畫記がかくも重要な資料と認められてゐる根據については、私がこの書評で殊更に説きたる必要はないであらう。張彦遠の家は代々大收藏家であつたこと、また彼の際會した時代が偶々會昌年間の唐武宗の佛教破壊時代であつたことは、收藏せる歷代名畫の著錄を思ひつかせ、かつ破壊せられ、また破壊せられんとする寺觀の畫壁の類の覺えがきを作らしめたのである。しかも彼自身は犀利なる視覺をもてる稀有の批評家であつた。彼は前代までの畫評に満足しなかつた。内藤博士「支那繪畫史講話」(佛教美術誌第十一冊)には張彦遠及びその歷代名畫記について懇切な解明がなされてゐるが、この間の事情をかう言つてゐられる。「大體、前代の畫評を評して、都て淺薄だと云つて、後漢の孫暢之の述畫記、梁武帝、陳の姚最、謝赫(實は梁の人)、隋の沙門彥琮、唐にては李嗣眞、劉整、顧況、裴孝源(貞觀公私畫史の著者)、竇蒙等をあげ、中でも彥琮の著を最も謬が甚しいといつてゐる。」また、

「張彦遠の批評は綿密を盡したもので、歷代畫家の長所短所に就き、例へば隋以後にありては誰れは野外の景に妙で、誰れは人馬に巧に、誰れは朝廷の縉紳を畫くに秀でゝをるとか細かに論じてゐる。」

また、「(彼は)畫品を次の様に立てる。自然、神、妙、精、謹細。この五等で、謝赫の六法を包括するつもりだといつてゐる。形や彩色に於て充分に備つてゐるよりも繪の出來ばえの自然な方が最よいとして居る。」中國繪畫史(商務印書館發行中國文化史叢書第一輯)を著した俞劍華によれば歷代名畫記は左の如く分類されるとしてゐるが、讀者の參考とならう。





小野勝年君の譯註本は、諸書によつて校合したこと出来るだけ支那學關係外の人にも親しましめんとして註を多くしたこと、かくてこの古典の論畫史上、繪畫史上の、間口奥行ともに廣き内容に光あらしめんと意圖したこと等は、その勞作のため高く評價せねばなるまい。新しい學問である支那美術史の部門では、この種の基本的な仕事が吾々の世代の課題であり、出發點たるべきを信するのである。(長廣敏雄)

ヘエニツシユ氏の元朝秘史

Mangholi nu Nicu Toboacan (Yüan-chao pi-shi). Die geheime Geschichte der Mongolen, aus der chinesischen Transkription (Ausgabe Ye Têh-hui) im mongolischen Wortlaut wiederhergestellt von Erich Haenisch. Leipzig, 1937.

- 81 -